

カトリック六甲教会 教会報

2007
11

No.431

11月の予定

		教会暦	教会行事
1	木	諸聖人(祭日)	7:00 10:00 ミサ
2	金	死者の日(初金)	7:00 10:00 ミサ 墓参10時ミサ後
3	土	文化の日	
4	日	年間第31主日	13:30 聖体奉仕者の集い
9	金	ラテラン教会の献堂	10:00 婦人会黙想会(売布黙想の家)
10	土	聖レオー世教皇教会博士	
11	日	年間第32主日	七五三の祝福(11:00ミサで) 12:30 壮年会例会(大いに語る会) 17:00 集会祭儀(海星病院)
12	月	聖ヨサファト司教殉教者	
15	木		14:00 ベタニアの集い
17	土	聖エリザベト(ハンガリー)修道女	壮年会遠足(鳥取教会へ)
18	日	年間第33主日 聖書週間(25日まで)	13:30 侍者一日練成会 17:00 集会祭儀(海星病院)
19	月		14:00 三日月会 ミサと例会
21	水	聖マリアの奉献	
22	木	聖セシリアおとめ殉教者	
23	金	勤労感謝の日	10:00 援助修道会による追悼ミサ
24	土	聖アンデレ・ジュン・ラク司祭と 同志殉教者	10:30 哲学講座(生徒研修所) 14:30 教会学校ホールミサ
25	日	王であるキリスト(祭日)	
26	月		11:00 ベビーとママの集い
30	金	聖アンデレ使徒	

訃報



ピンセンチオ中井允神父様が10月30日(火)午前10時40分
白血病のため、イエズス会の介護施設口ヨラハウスで帰天されま
した。享年80歳。

六甲教会の出身で、かつ六甲教会で40歳代と70歳代の2回の
時期に亘って奉仕し、多くの方々の救いのために働いて下さいま
した。

心から感謝をもって、永遠の安息を祈りましょう。

またまた摂理か偶然か

私は六甲学院を62才の時、定年退職し、その後老人ホームのチャプレンとして2年半ほど務めていましたが、次のような事情で六甲に帰って参りました。

老人ホームにNさんという老人がいました。可哀想に病気で、廊下などで人と顔を合わせると「悪魔」と叫んで、それを注意する人に「死んでやる」とか「人殺し」とか叫んで、他のお年寄りから恐れられていました。Nさんは私に対して特に厳しかったようです。私は何回となく叱られました。聞くところによるとNさんは不幸な生い立ちで、身寄りがなく、結婚はしていない、子供もいない、世話をしてくれる人が誰もいないという状態でした。

私はNさんが老人ホームから居なくなるようにと祈りました。しかし何か気が重くなるばかりで良い結果は表れませんでした。ある日祈りを変えてみました。「私の希望ではなく、神様のお望みのようになりますように」と。すると不思議に、次の日、私はシスターから「Nさんにとって、誰も世話をしてくれる人がいませんから、死を迎えるまでここで世話をしあげなければなりません。神父様は帰るところがありますから、身を引いて神戸に引き上げていただけませんか」と言われました。その時、私の心の中に神のみ旨はNさんが居なくなるのではなく、私が去ることが大事なのだと考えが変わってきました。そう決まった後、聞いた話ですが、いく人かのお年寄りはショックを受けたそうです。それは或る人は私に葬儀をしてもらいたかったとか、夜眠れないとか、食事が取れないとか、色々です。

丁度その頃、私はポリープの手術を受けるため、海星病院に入院する予定になっていました。六甲に帰ったその夜、或る神父のお母さんから電話が入りました。

内容は春に行く予定のイスラエル巡礼にチャプレンとしてご一緒できませんか、というものでした。もし私があのまま老人ホームに務めているのなら、この話は受け入れることはできなかったでしょう。しかし今は、引き上げることが決まっていたので、話はとんとん拍子に決まりました。

そしてこの巡礼でガイドの河谷龍彦さんと知り合いました。河谷さんを通して、また主任神父の理解もあって、何回か聖地巡礼という経験を得ることになったのです。エジプト、シナイ半島の旧約の世界、イスラエルのガリラヤ、エルサレム、ベトレヘム等の新約の世界をはじめ、パウロの霊名を頂いていることから、使徒行伝に書かれているトルコ、ギリシャ、マルタ、ローマ等へ。イエズス会会員であることから、フランシスコ・ザビエルの故郷ハビエル、イグナチオ・ロヨラの生誕地ロヨラ、世界的な巡礼地サンチャゴ・デ・コンポステラ等に連れて行って頂くことができました。

このような次第で本当に感謝々の巡礼旅行を経験させて頂くことができました。これこそ偶然ではなく、神の摂理と言えるものではないでしょうか。河谷さん、またご一緒した皆さん、本当にありがとうございました。

安芸瑛一 神父



山上の垂訓教会

各 部 会 だ よ り

📖 壮年会

「大いに語ろう会」を開催します。神戸地区評議会養成委員会の新しい企画でもあります“若い世代へ 信仰をどう伝えるか、どう支援するか？”をテーマにザックバラン語り合ひましょう。立食昼食付です。

11月11日(日) 12:30~14:30

場所：1・2号会議室

📖 婦人会

朝夕、めっきり冷え込んでまいりました。この夏の暑さが嘘のように感じられます。

風邪など召しませんようにご留意下さい。

10/28(日)のチャリティーバザー、楽しんで頂けたでしょうか。バザーでは延べ188名の婦人会メンバーのお手伝いを頂きました。心より御礼申し上げます。また、蚤の市に多くの品物を頂き、嬉しい悲鳴を上げた次第です。皆様のご厚意に深く御礼申し上げます。

11/9(金)婦人会の1日黙想会があります。キリストにたちかえり、心を裂き、純粋なものへとつながる誘いです。

- ・ 受付：9:30 ~
 - ・ 時間：10:00 ~ 16:00
 - ・ 場所：売布黙想の家(女子御受難会)
 - ・ 指導：井原彰一 神父
- テーマ：『主よ、新しくしてください!』
~新しいぶどう酒は 新しい革袋に~

【聖堂当番】

- 11/4(日) ミサ後 6班
- 9(金) 西5・中1・2
- 16(金) 中3・4・5
- 23(金) 午後 1班

📖 三日月会

三日月会喫茶

11月4日(日)9時ミサ後~13時

三日月会例会

11月19日(月)14時ミサ~16時

📖 青年会

11/4(日) 定例会

12:30~ 第3会議室

内容：聖書を読んで分かち合い等
初めての方もお気軽にご参加下さい。

11/18(日)大塚美術館へ美術鑑賞

そのため定例会はありません。



📖 教会学校

11月3日(土) お休み(祝日)

11月10日(土) 通常クラス

11月11日(日) 11時ミサにて七五三の祝福

11月17日(土) 通常クラス

11月24日(土) ホールミサ

📖 社会活動部

11/2(金) 13:30~ 社会活動部連絡会

今年度の活動等について!

各ボランティアグループの責任者の方はご参加をお願いします。

📖 地区会

地区会開催へお知らせ

灘3地区(六甲台、大月篠原台、伯母野山)

・日時 11月10日(土)10:30~

・場所 六甲学院修道院庭園

・内容 野外ミサと懇親会

・費用 1,000円(当日徴収)

チャリティーバザーの報告

皆様の温かい御奉仕と各会の獅子奮迅の活躍により、また当日の絶好の天気にも恵まれ、例年のない収益をあげることが出来ました。
収益金は「心から、誰かのために」というバザーのテーマに沿って、すべてクリスマス献金として、内外の恵まれない人々に寄付されます。

皆様に感謝申し上げます。

(行事部 船井)

<お 知 ら せ>

【社会活動部より】

11/7(水) 10:00~ 手芸の集い(第1・2会議室)

参加自由。お気軽にご参加下さい。

11/10(土) 10:00~ 炊き出し(イグナチオお台所)

小野浜グランドにて配食や、おじさん達とのお話し相手だけでもOKです。

11/18(日) 9:00 ミサ後 手作りコーナー(イグナチオホール)

お弁当・食品。小物販売

11/23(金) 14:00~ おにぎり作り(イグナチオお台所)

須磨方面夜回り支援



【養成部より】

哲学講座

第 3 回

講 師： 奥村 和滋 先生 (聖トマス大学教授)

日 時： 2007年11月24日(土) 午前10時30分

場 所： 六甲学院生徒研修所

費 用： ￥1,000. 学生 ￥300.

「哲 学 講 座」を受講して

2007年度の哲学講座が9月24日から始まりました。「哲学はむづかしい」と思い込んでいましたが、2006年度の入門講座で奥村先生のやさしく、魅力ある講義によって、哲学は日常生活の土台、思考の根底であると知るとすっかり哲学の虜になりました。

今回は大阪から現役の大学院生や、大学生の参加があり出席者平均年齢がぐっと若返りました。今回の大きなテーマは「希望を蝕む格差の指標」でした。「人間にとって一番つらい事は、自分の未来に希望が持てないことである」と先生は指摘されました。子供や若者が抱えている自分の未来に希望が持てないと云う不幸は生きる力を歪める。更に希望を持てる者と持てない者の格差社会では、努力しても駄目、勉強しても無駄と希望の無さが学力低下にもつながり、更にこわいことは努力の報われない世の中なら早いうちに夢の芽を摘んで、自分の未来をあきらめさせフリーターとなって行く。道路と道の相違も一寸考えました。自分の目的地に向かってひたすら早く早くと走るだけが目的の道路。それに対し道は、凸凹していても景色を見たり、連れと話したり、歌ったり、道草をしたり目的地迄の過程を楽しむ余裕を持つ。現代は早く結果を出す者が勝ちで、ゆっくり成長するものを待つ事をしない。もう一つ、西欧文化と日本文化の面白い対比をしました。昔の西欧文化の象徴である教会建築は高く高くと高さを誇りそれが信仰の表現でもありました。日本の寺院で高いものは五重の塔ですが、塔の美しさは高さよりも高さに対してバランスよく張り出している層にあります。即ち西欧の上昇志向に対して日本は水平志向でした。しかし今の日本は高さの競争です。六本木だけでなく、教会のすぐ傍にも11階建てのマンションが出来そうです。

このようなお話を伺っているうちに、私にはっきりと聞こえて来たのは、主の角笛の声でした。夢を摘み取る希望の無い社会。一刻も早く成功を掴むためには 他人を踏みつけてもお構いなく早く、早く。隣人への思いやり、弱い立場の人々への配慮が忘れられて行く社会。「こんな日本を主は望んでおられない。お前がキリスト者として主に仕えるなら主の角笛に応えよ」と揺り動かされ、哲学の勉強でありながら、厳しい主の呼びかけを聞きました。

聖書朗読リレー初参加の感想

聖書朗読リレーに初めて参加して、今静かに振り返り、あるエッセイの次のような一文を思い出した。『(雨宿り)それならいっそ、雨が時を止めるままに景色の中で遊んでみるのもよい。そこには、立ち止まってみななければ決して見つからない宝物が、潜んでいるかもしれないのである』これを私の感想としたい。

聖書は、よくベストセラー世界一と言われる。しかし、一般的に「聖書に書いてあることについての書物」を読む方に陥りがちで、「聖書そのもの」をじっくり読むことはあまりしていないのではないだろうか。そのような私自身であります。今回はとても良い機会を与えていただいた、という思いである。

さて朗読リレーのことであるが、本番への準備として聖書を開き、自分が読む予想箇所に一応は目を通すであろう。仮にぶっつけ本番であってもリレーであるから、前の人朗読を耳と目で追いつめるようなバトンリレーを心がける。自分の番に引き継いでからは声を出して場の雰囲気を感じながらも、制限時間一杯まで、のどが渇いても舌がもつれてきても、ひたすら読み続ける。そして次の人へバトンを渡す。交代したら後ろの席へいき、途中になってしまった朗読箇所を今度は次の人を読んでくれるのを静かに聞く。これが標準パターンと思うが、しかし割当て時間に関係なく部屋に入って、聖書の文字を追うのもよし、朗読を聞きながら黙想するのもよし、時間が許す限り自由に聖書と親しめばいいのである。なお何かを感じることができればそれ以上の事はない。とこれは私の勝手な解釈である。

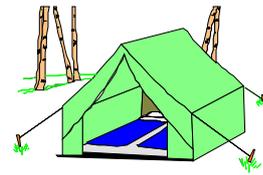
次に、単にあんたが知らなかつただけと言われそうで恥ずかしいのであるが、今回の私の体験談である。自分の番を終え「ガラテヤの信徒への手紙」の朗読を聞いていたところ、アブラハムと二人の息子と女奴隷が出てきたので、「おやっ何で」と思ってしまった。疑問を忘れないうちに帰って改めて読み直してみても、女奴隷ハガルとその子イシマエルは「律法によって奴隷とされている人間」の比喩であり、キリストの福音によって自由へ人間を解放するというパウロの論点ではないかと解釈した。最後に一言付け加えさせていただく。今回の聖書朗読リレーは、約10時間に及び人から人へつないで、43人によってゴールした。聖書の力によって、「分かち合い」の教会を感じるものであった。インターネット、携帯電話で世界のどこにいても情報を取ることが出来ると言われている。グローバル化の進展により、現在の社会は効率性を優先させるあまり、判断基準を貨幣価値に置き換え、金銭至上主義がはびこり、耐震強度や食品の安全性の偽装事件にみられる倫理意識の欠如や格差が広がっている。大人も子供も忙しくて疲れてきているのではないか。そんな時に立ち止まって、静かな空間に身を置いて過ごし、聖書に触れてみるのもいいではないか。「狂った弓」である人間は、己自身では矢的的に当てることは不可能である。9月の教会報に「神を必要としない人の願いを聞くほど神様は暇人ではない。」と書かれてあった。願い祈らなければ的から外れっぱなしである。(宮根)



この原稿は、先月号教会報に載せるために寄せられたものです。広報部の不手際により今月号の掲載になりました。関係者の皆様にお詫び申し上げます。

(広報部)

青年会キャンプ



あらまし

こんなにすぐ近くに、観光スポットがあるなんて不思議です。六甲山・摩耶山には一年中観光客が訪れるそうです。今年9月8日(土)～9日(日)に、六甲山Y M C A キャンプ場に行きました。参加したのは男子9名、女子5名、合わせて14名です。1日目はキャンプ場で過ごし、2日目は昼過ぎ迄留まり、5人だけでカンツリーハウスに寄り、夕方教会に着きました。

キャンプはなぜ必要か？

自然の中で仲間と過ごし、山のおいしい空気を吸って、一緒にご飯を作ったり、話し合ったり、夜の星空を眺めたりすることはすばらしいことです。特に女性は、自然のリズムを体で感じることや適度の刺激が必要です。日米の女優がTVで異口同音に語ってくれました。ぼくは、小中高生の頃の佐用のキャンプ場の草木の香りや、地方の農家の米俵や稲穂のにおいが忘れられません。いつも懐かしく思われます。帰ってきて、ふとボウシを覗くと、フチが汗でびしょりとぬれていました。キャンプはきっとみんなをよい未来へと導いていってくれるものと信じています。どんな時も神様が共におられるのだと信じます。

キャンプ前準備したコト

人にはそれぞれ得手不得手があります。自分にできることを何かやるべきです。キャンプに行く前に、Y君と2人で約束して、歌と漫才の練習をしました。一日目の夕食後、キャンプファイヤの火をおこして、みんなの前で実演しました。思った以上にみんなが笑い、あとで何人かががんばるように言ってくれました。うれしかったです。



ペシャワール会中村哲医師の講演会を終えて

中村哲医師の講演会は大盛況の内に終わることが出来ました。参加人数は約430人、うち約170人(40%)が教会関係者以外で若者中心の一般の方々でした。

中村先生の講演は、パキスタン・アフガニスタンの山奥の想像を絶する厳しい自然環境の中での23年間にもおよぶ医療活動、援助活動の多くの経験を通じて、人間にとって本当に必要なものは何か、最低失ってはいけないものは何であるかを私たちに伝えてくれるものでした。困っている人を目の前にして見過ごせないという気持ち、忍耐と努力で相手を知り思うことの大切さ、人間は造られたものであるとの認識と良心。心が揺さぶられる講演でした。

教会外の一般の方々が、若い人達を中心に参加者の4割を占める約170名もの沢山の方々が、六甲教会聖堂に来ていただいたことはビックリで感動でした。非常に意味あることです。

また、教会の高校生、大学生、大学院生そして社会人となった若者の皆さんにお手伝い頂きました。会場の設営、受付、後片付け等など若い皆さんのグループがお手伝い頂いたことに大きな意義があったと私は思っています。みんな本当に有難う。これからもこういった雰囲気教会として保ちたいも

のです。神戸地区の仲間教会からも大勢来て頂きました。

今回イベントの仕掛け人は六甲学院教諭吉村先生です。吉村先生、感謝申し上げます。また、講演用の映写操作は六甲学院教諭青木先生にお願いしました。有難うございました。

最後になりましたが、何もかもお手伝いいただきました婦人会の関係者の皆様、ご苦労様でした。感謝いたします。

(壮年会 川合)



中村哲医師の講演を聞いて

10月15日、六甲教会で中村哲医師の講演会に行きました。NHKのテレビ番組等でお話をお聞きしたことはありましたが、実際にお会いしたのは初めてでした。

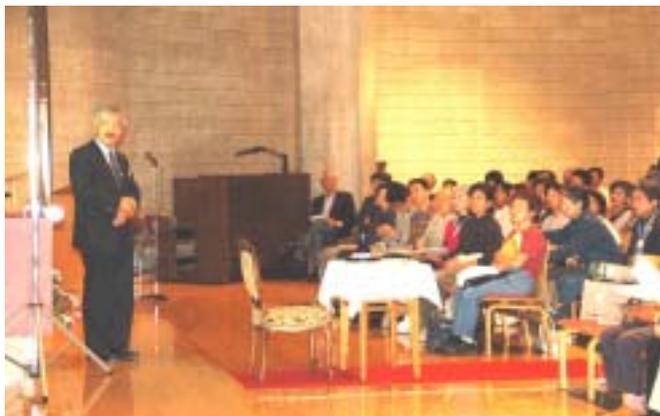
アフガニスタンで医師として働きながらも、現地の地球温暖化による砂漠化によって起った水不足を解決するために、井戸掘りもしている中村医師。そのゆっくりと優しい口調で語りかける一言一言に先生の強い信念を感じることができました。こんな先生だからこそ、言葉も宗教も生活習慣も違うアフガニスタンという国で23年間も現地活動を続けていくことができたんだなと思いました。

なぜ中村医師は医者なのに水路を掘るのか。2000年、中央アジアを大旱魃が襲い、多くの犠牲者を出しました。そしてその大半が、水不足のために汚水を口にして下痢症にかかり脱水で死んでしまった子供でした。「治療よりも水だ」そう考えた中村医師は「飲料水確保」のための井戸掘りを始めたのです。私はそんな医師が、有名な絵本「木を植えた男」に共通している部分があるなと感じました。水という種をまき続けることで、何万人という人の健康を守り続けている。これには相当な決意と体力を要することだと思うし、普通の人なら、わざわざ他の国に行って、その土地の人を助けようなどなかなか思えることではないのではないかと思います。もちろんそれは、中村先生の意志があったからこそできた話ですが、家族の理解があってできたことでもあるということをお忘れはいけないと思います。私がもし家族なら、今でも治安は安定しておらず、いつ攻撃にあってもおかしくないような場所には行ってほしくないと思います。

それでも現地へ行って働く、自分のやりたいことをやり通せるというその心の強さに私は尊敬という言葉しか出てきませんでした。

今の私にできることは、もっと、水路を広げられるように募金をすること。そして中村哲さんと云う素晴らしいお医者さまがいることやアフガニスタンの現状を、一人でも多くの人に伝えることくらいしかできません。ですが、それを実行することによって少しでも人の命を救うことができればいいなと思いました。

(中学3年 高橋)



蔓延するマナー喪失症

皆様へのお願い

評議会議長 高山 吉彦

空き缶やペットボトルの投げ捨て、タバコの吸殻のポイ捨て！
道路はいつの間にゴミ箱や灰皿になったのでしょうか？
はびこるマナー喪失症、カトリック六甲教会にも忍び寄っているのではないのでしょうか？トイレや空調のスイッチ切り忘れ、ミサ後に典礼聖歌集やプリントを所定の場所に戻さないなど。お忙しいのは良くわかりますが、せめてこれぐらいのことはやりましょう。
大部分の方はキッチリしていただいているのにこんなことを書かなければならないことをお察しくください。
壮年会の役員の方々のご努力で、駐車マナーは本当に改善されました。
駐車票があるのをご存知なかったり、新しくなっているのを知らなかった方々が居られたのは我々の伝達不足と言わざるをえません。申し訳ございません。

もう一つ最後に大事なこと。教会の第五の掟『各々の分に応じて教会の維持費を負担すること』は公教要理にも明記されています。特に信徒の二世、三世の方々の中に年老いた親に負担してもらっている方は居られませんか？どうかご自身の責任においてご負担を今月からでもお願いする次第です。社会人として収入のある方々は受付に申し出て、維持費袋を作ってくださいようお願いいたします。

📖 図書紹介

知るを楽しむテキスト『ニッポン近代化遺産』

清水慶一 著
日本放送出版協会

NHK教育テレビに「知るを楽しむ」という番組がある。11月12日午後10時25分から「キリシタンの村の殖産興業」が放送予定になっている。

かつて放映された雨宮神父の旧約聖書の講義も、テレビよりもテキストのほうが内容も充実していたし、随時読み返すことができる。このテキストも一読に値すると思われる。

今回の番組の内容は1868年(慶応4年)、まだ迫害の最中だった長崎に上陸したド・ロ神父の建築を主とした事績である。不思議なことにド・ロ神父の教えを受けて多くの聖堂を建てた鉄川与助は最後まで信仰を受け入れなかった。ド・ロ神父の事績は貧しかったキリシタン末裔の殖産のほうが重要だった。新たな宣教というよりは信徒の救済であったと思われる。

ド・ロ神父の事績については、このテキストと似た内容の、2004年9月の日本経済新聞「天主堂の祈り」と題する特集記事があり、他にも単行本も出版されているが、この方は転居の際失われたのか手元に見当たらない。

読み進んでテキスト最後の数行に至れば、我々が今何をしなければならないのか、どうあらねばならないかを考えさせられる。
(ヨハネ 三好)



みんなの広場

ユーモアをお楽しみ下さい。



神様への電話

神様に電話をする時には、いくつか通話上の基本的なルールがあります。

- ルール1：めくら滅法にダイヤルしてはいけません。正しい番号を選んで、確かめなさい。
正しい番号はイエスの番号です。
- ルール2：神様との会話は独り言ではありません。聞くことを覚えてね！
- ルール3：もし留守番電話なら、ダイヤルの番号が間違っています。神様はいつも電話の所におられます。
- ルール4：もし話し中でしたら、神様と話したいと言うあなたの望みが誠実でないからです。
- ルール5：通話が切れるのは、あなたの方から切ったからです。修復するには、隣人や敵と和解する決心をし、小さい物事に忠実になり、あなたの罪を神様に赦して頂くように、心の準備をして下さい。
- ルール6：緊急の時だけ電話をすると言うような習慣は捨てましょう。ただ単に、神様に「あなたを愛しています」と言う為にだけでも電話するのは、とてもよいことだと覚えて下さいね！
- ルール7：ただ決まった時に、割引料金だからといって電話をしないようにね。神様は決して御自分の仕事が煩わしいと考えられることもないし、あなたが神様をうんざりさせることもありません。暇な時間も、忙しい時間もなく、普通料金も割引料金もありません。
残念なことに、ある人達は日曜日の朝にしか電話しようと考えません。どんな時にも、どんな週にでも、沢山の短い通話は、日曜日の朝の長い、きりのない電話より、よほど値打ちがあるんですよ。
- ルール8：通話料は無料ですよ。フリーダイヤルなんです。なんて素晴らしいんでしょう？
- ルール9：あなたの留守番電話を絶えず、きちんと聞くのを忘れないようにして下さい。
というのは、イエスご自身があなたに電話してメッセージを送るのに、度々あなたがその電話を聞いていないことがあります。ですから、あなたの留守番電話を定期的に確かめて下さい。時々、時間をとって調べて下さい。メッセージを聞いてないなんてことがない様にね！

保障条件：

何よりもまず、通話がうまくいかなければ、電話の使用の仕方をお確かめして下さい。
この使用の仕方を「聖書」と呼びます。あなたの電話は、終身保険付で、アフターサービスがついています。電話が不通の時、たいてい「罪の告白」の恵みですぐに修復されます。あなたが使われる電話は、電線でも、ケーブルでも、電磁波でも、衛星回線でもありません。世界中何処へでも、あなたの家のどの部屋にでもあらゆる場所へ自分で持っていけるポータブルです。伝達の方法は「聖霊」と呼ばれています。
アンケートの結果、電話利用者の100%が満足していることが分かっています。

主任司祭の地平線

死者の月を迎え、大聖堂後方の壁にこの一年間に帰天された方々のお名前を掲載していますが、今年は28名の方々です。地上のご生涯を全うし今は天上の教会におられる方々に感謝を捧げ、ご冥福を祈り、また私たちの救いのために憐れみの神に取りなしを願います。

この秋は教会の施設や備品の使用について、そのマナー向上に努力しています。受付の方々と壮年会役員やミサ案内係りの方々の協力により大きな成果がありました。例えば、トイレや会議室の電気と空調、退室前の机や椅子の片付けなど。ミサ後、聖歌集・プリントをきちんと元に戻す。ロビーなど建物内での禁煙。これらは次に使用する方々への思いやりです。駐車場では限られたスペースを有効に利用できるように心がけ、また自動車登録証を提示して互いに責任を持ち合う。

11月からの努力目標としては、社会人になって収入のある青年男女に親の傘から自立して維持費などの責任を持っていただくこと(評議会議長が書かれている通りです)。これは若い方々にも自分たちの教会への責任感を育てるためです。多くの故人や先輩達がされたように、私たちも思いやりのある暖かい教会を作り、生き生きした姿を次の世代に伝えていきたいと願っています。

次号教会報への原稿提出は締切日を厳守して下さい！

教会報12月号の発行は、12月2日(日)です。 編集会議は11月25日(日)です。 記事原稿は、11月18日(日)正午までに信徒会館事務室へご提出願います。(広報部) http://www.rokko-catholic.jp	カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21 電 話 0 7 8 - 8 5 1 - 2 8 4 6 発行責任者 桜 井 彦 孝 神 父 編 集 広 報 部
--	--